

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 0190200915, 株式会社つケアサービス).

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 基本情報リンク先URL) and Value (http://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kani=true&jigyosyoCd=0190200915-00&PrefCd=01&VersionCd=022).

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 評価機関名, 所在地) and Value (e.g., 企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部, 札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは4階建ての複合型介護施設として平成27年4月に開設される。1階～4階はサービス付き高齢者向け住宅、1階では小規模多機能型住宅介護、2階3階はグループホームとなっている。
館には100坪にもなる農園があり、散歩や農作業、収穫をする楽しみがあり、利用者様との交流が随時図れ、顔なじみの関係を構築することが出来る。
行事などは皆が参加が出来るよう企画し、三人行事である夏祭り、敬老会、クリスマス会には力を入れ、複合型施設のメリットを活かし大規模開催により楽しむことが出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、札幌市東区北丘珠の閑静な住宅地に位置し、サービス付き高齢者向け住宅と小規模多機能型住宅介護事業所を併設した4階建て複合施設の2ユニットのグループホームである。施設の1階から4階までがサービス付き高齢者向け住宅の居室で、1階に小規模多機能型住宅介護事業所があり、2階と3階がグループホームとなっている。1階にはコミュニティカフェのスペースがあり、町内会に開放するなど地域との交流に役立てている。法人は、大手老舗の法人グループで、市民からの信頼も厚く、長年の経営で培ったノウハウを介護事業所の運営に活かしている。当事業所は開設から3年を迎え、北丘珠地区唯一の複合施設で、東区と地域包括支援センターと共同で認知症サポーター養成講座や健康体操を開催するなど地域住民からの期待も高い。ホームの利用者とサ高住の居住者との日常的な交流や施設主催の夏祭りや100坪の菜園は地域の方の協力で楽しい行事となっており、認知症高齢者介護の事業所としてこれからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement (self-check), Achievement (evaluation). Rows 56-62.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者会議にて、理念とコンプライアンスと題し法人理念、ケア理念の意味と重要性の研修を行う。職員に伝え毎朝の理念唱和を行い、実践に繋ぐことができるように努めている。	法人理念と七つのケア理念があり、申し送り時に職員全員で唱和し、ユニット会議で振り返りを行って職員間で共有し実践につなげている。また、理念は事業所内に掲示し、パンフレットにも掲載して、利用者や家族にも周知をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域運営推進会議に町内会役員が出席されている。また、夏祭りを開催した際に町内会から太鼓などをお借りしたりと日常的に交流を図ることが出来ている。昨年から引き続いて地域向け便りの発行を行い、地域に向け発信している。	町内会行事に参加しており、また、地域に向けての通信を発行して、事業所の広報をしている。地域の方が事業所主催の夏祭りに参加したり、事業所の広い菜園の手入れを主体的に手伝っているなど、地域の方と日常的に交流している。	地域とは日常的に交流しているが、利用者とのふれあい交流として、事業所の行事にボランティアの参加や幼稚園、小学校など子供の訪問交流などを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域向けの新聞を通して、地域住民に発信し情報を提供している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている	日々の活動の報告、運営状況をお伝えすることで、包括、地域住民、ご家族から意見を頂き、サービス向上に活かすよう努めている。	運営推進会議は、地域包括支援センター担当者や地域の方、家族が参加して、定期的開催し、運営状況の報告や意見交換など行いサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて、地域包括支援センターから研修案内やその他情報を頂くことができ、協力体制を築くことが出来ている。	地域包括支援センターとの協力で認知症サポーター養成講座の開催や健康体操など行っている。また、東区グループホーム管理者会議に参加し、勉強会や災害対策など協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本社新人研修でのカリキュラム、ユニットにおいても11月カンファレンス内部研修で実施予定。利用者様のニーズに合わせられるよう、拘束なくケア出来るよう努めている。	身体拘束をしない指針やマニュアルを整備して、新人研修では本社にて実施して、事業所では、内部研修など行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	項目6同様、本社新人研修カリキュラム、ユニットでは11月カンファレンス内部研修で実施予定。4月には接遇と題し、言葉の虐待を周知し適正なるケアに向け実践を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ユニットにおいて1月に研修を予定している。また、権利擁護は知識向上の為に毎年研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今年度は新しい契約締結はない。しかし、契約時には営業部長、管理者も同席し不安や疑問点の解消に努めながら理解、納得を頂くよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケート箱の設置、来訪時の意見交換にて設け意見・要望・苦情報告書のツールを活かし、反映することが出来ている。	ホーム便りを毎月発行して、運営状況や利用者の生活状況を家族に報告している。意見箱を玄関に設置しており、家族に職員の接遇のアンケート調査をするなどして意見を聞いて運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の管理者会議、ユニット会議、また2月に1度のリーダー会議の開催にて意見提案を聞く機会を設けられている。ユニットでは都度必要時に面談も行い意見を吸い上げている。	ユニット会議は月1回行っており、本社では、毎月の管理者会議や2ヶ月毎のリーダー会議を実施している。職員の面談は、ユニット毎の管理者が都度行っており、職員からの意見や提案を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や勤続手当などの支給により意欲向上が図れるよう環境整備が行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者、実践リーダー、初任者研修と受講できる機会を確保しており、法人内においても他事業所との交換研修、利用者様の身になり体験する実習と職員の力量を把握した上で実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者連絡会を通じて同業者との交流を図り、ネットワーク作り、勉強会に参加し質の向上を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の際には、開始前に面談を通じて情報収集しご本人、ご家族が安心出来るよう働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談や基本情報シートの記入により、思いの把握を行っている。入居後も都度、相談を行えるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の実情や要望を把握した上で必要としている支援の提案をさせて頂き、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や台所仕事、畑の収穫、散歩、買い物などと要望に応えながら、ご本人の力を活かすことができるよう支援に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へご本人の状態を電話またはお手紙で伝え関係性を築き、病院受診同行や運営推進会議、夏祭り、誕生会などの出席をして頂くことで相互の関係性を大切にすることが出来ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、友人、知人の来訪が多く、居室や1階面談室で過ごして頂けるよう支援に努めており、利用者様もゆったりと笑顔で過ごされている。	利用者は地元出身者が殆どで、家族や友人・知人の来訪が多い。お墓参りや馴染みの店などは、家族と外出時に一緒に行っており、関係継続ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングソファで利用者様同士、会話を楽しまれている。職員が間に入ることで円滑にコミュニケーションが図れるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度は、退去者はいないが必要時には相談、支援が出来るよう体制は整えている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	都度、利用者様の言動、行動を把握し希望や意向の把握を行っている。困難な場合は行動、表情の変化から支援が行えるよう支援に努めている。	利用者へのアセスメントを十分に行い、その場で声掛けして、本人の思いや意向を把握するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から基本情報シートの記載で生活歴などを把握し、都度面会時等で日常会話を通じて情報を聞くことで支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り、カンファレンスで情報共有を行っており、また健康チェック表や個人記録、日誌など書類を見ながら把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がモニタリングを行い記載しており、毎月カンファレンスで課題など抽出し検討。ケアプランに反映ができるように作成している。	利用者毎の担当者がモニタリングを行い、作成担当者が原案を作成し、カンファレンスで検討し、本人や家族と打ち合わせして、現状に即した介護計画を作成している。見直しは3ヶ月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画におけるサービスをはじめ、日々の様子を介護記録に記載、見直しを行うことで情報共有、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	別ユニットへの協力支援、緊急時における通院支援など柔軟に対応出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	おやつを買いに商店への買い物、郵便局への投函や切手の購入など心身の力を発揮できるよう働きかけ支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に提携したかかりつけ医を提示した上で、選択できるよう希望を大切にしている。提携医療機関では月2回の訪問診療、24時間の医療支援体制で適切な医療を受けられるよう支援している。	以前からの専門医等のかかりつけ医は、家族同行で受診している。協力医療機関の訪問診療は月2回24時間体制で、週1回の訪問看護にて適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回職場内の訪問看護があり、健康チェックや相談・報告を行い指示を頂いている。提携医療先の看護師とも都度連携を図り、情報共有を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人の状況を介護添書として病院関係者に伝達し、経過確認、リハビリや食事の立会いなどを通して関係者との情報交換、ご家族との相談をし関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化した際の指針の説明を行い同意を頂いている。体調の変化時は看取り介護指針に則り、医師や看護師、ご本人、ご家族との話し合いの場を設け説明、看取りの同意を得るよう支援を行っている。	重度化や終末期については、入居契約時に説明し同意を得ている。重度化した場合は、再度、医師や看護師、本人や家族と話し合い、意向を確認して看取りの同意を得てチームで連携して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本社マニュアルの緊急時フローを都度確認をし実践に活かすよう取り組んでいる。目につく場所に張り付け確認できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回の訓練を計画、実施し発電機の稼働の仕方を職員で共有。一時避難先の会館や町内の方との連携にも努めている。	消防署の指導の下、年2回火災の避難訓練を実施しており、地震や水害の避難訓練も年2回実施している。備蓄や備品も整備し、発電機などの使い方も訓練するなどして災害対策を行っている。	年4回火災や地震などの災害も含めて避難訓練を実施しているが、地域の方や家族の参加協力も今後得られるよう期待したい。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本社、事業所内において研修を実施。また事業計画や毎月の目標に掲げ、接遇を通して言葉掛けなどの対応に配慮している。	人格の尊重やプライバシーについては、本社で研修を行っているが、事業所内のカンファレスでも接遇研修を行っており、呼びかけや声掛けなどに配慮している。また、本社にて、家族へ接遇に関してのアンケート調査も行って、接遇に活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩や買い物、その他要望があれば希望に沿えるよう支援している。また、都度自己決定が出来るよう働きかけ、表出されにくい利用者様は声かけの工夫により自己決定が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	テレビ鑑賞、マッサージ機の使用、新聞閲覧など利用者様のペースを大切に支援が出来るよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1ヶ月に1回訪問美容にて身だしなみの支援を行っており、またご本人との相談のうえ服装を選んだりとおしゃれが出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は業者が行うが盛り付けは利用者と一緒に楽しく行い、可能な利用者様は下膳、食器洗いや拭きを行い機能を活かしている。なお、ユニット合同の寿司パーティーも開催し利用者様の笑顔も見ることができた。	料理は、業者委託だが職員が盛り付けている。利用者は、下膳や食器洗いなど職員と一緒に手伝っている。行事食は、元寿司職人の職員によるユニット合同の寿司パーティーや焼き肉パーティーなどを実施しており、特に誕生会は朝から夜まで誕生日の一日を祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は声かけ、チェックし過不足なく摂取できるよう努めている。利用者様に少しでも合わせることができるよう給食会議を開催し、改善等が図れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には声かけ、見守りによりご本人に合った口腔ケアを行い、介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日頃からご本人の様子を伺い、排泄チェック表をもとに把握し行っている。介護計画にも立案することでサービス実施を意識し支援を行うことが出来ている。	利用者毎の排泄チェック表を職員間で共有し、本人の様子や仕草を見て、個別に職員がトイレへ誘導して、排泄の自立に向けた支援を行っている。トイレが広い為、ゆったりしているが転倒などの予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や日頃の運動を日常化することで便秘予防に努めている。なお、ヨーグルトやヤクルトを個々に召しあがっている利用者もおり予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回午後 ゆったりと入浴ができるよう支援を行っている。個々の意見を尊重し、時間帯を変えるなど配慮をしている。	浴槽は、3点介助型で、職員にとっては介助し易く、ミストシャワー機も設置され、介護度の重い方にも好評で、配慮された設備である。入浴は週2回で利用者の希望を聞いて個々に沿った支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の就寝リズムに合わせられるよう支援を行っている。また、暗い所でしか眠れないという方もおり、移動には自宅で使われていたペンライトを使用し安心して眠れるよう支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の内容が把握出来るよう、処方確認表や往診記録を置き確認している。確認後は確認印を押しており、また日誌で申し送りを必ず行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの喜びや達成感に繋がるよう、得意なこと、好きなことを活かし食器洗いや盛り付けの家事活動や運動を取り入れ日々を過ごすことが出来るよう支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の体調などに合わせ近隣への徒歩での散歩や車を利用した遠方への外出をしている。また、ご家族からの外出の申し出には当日、スムーズに出発出来るよう、スタッフ同士の情報共有を心がけている。	日常的に近くの商店や近隣の散歩をしている。外出行事は、公園へのピクニックや紅葉狩り、さとらんどやショッピングモールなど多様な外出の支援をしている。また、館内の小規模多機能の事業所と合同での夏祭りなど利用者の楽しみな支援をしている。	多様な外出支援をしているが、ユニットにより異なるため、家族や地域のボランティアを活用した外出行事の計画もこれから検討することを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に郵便局で切手を購入する為、お金を支払って頂いたりなど一人ひとりの希望や力に応じて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話をしたいとの要望がある時には、ご家族へ取り次げるよう支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁には、季節に応じた手作りの装飾を毎月行い生活感や季節感を採り入れ、居心地良く過ごせられるよう工夫している。また、掲示板には館の新聞や献立メニューも掲示いつでも見られるよう配慮している。	共用空間は、採光や風通しもよく、廊下も幅広く、居間も広くゆったりしている。利用者手作りの季節の飾り物や行事の笑顔の写真が掲示しており、利用者にとって寛ぎのリビングである。リビングには、2階3階ともベランダがあり、見晴らしがよい。避難用として、屋外に避難階段が設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前に2ヶ所ソファを設置しテレビ鑑賞や新聞を読んだり、利用者様同士の会話など自由にくつろぐことができるよう対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはタンスなどの収納の他、椅子やテーブル、ソファなど使い慣れた馴染みの物を利用し、居心地が良い居室の配慮に努めている。	居室には、大きな収納とベッドが設置され配慮している。利用者が、使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、リビング、洗面所、トイレなどの移動時の動線を確保し、目立つ赤色の手すりを設置している。また、トイレや洗面所など表示をすることで安全かつ自立した生活が送れるよう配慮している。		